

第1回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議 事 要 旨

日 時：平成26年7月25日（金）13：00～15：00

場 所：松川町役場 協議会室（2階）

1. 開会

2. 開会あいさつ

（中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長）

3. 規約の確認等

(1) 規約の確認

平成26年7月25日から施行とした。

(2) 第1回環境部会の実施報告

4. 委員長挨拶

5. 議事

(1) 小渋ダム土砂バイパストンネル事業の概要

事務局より小渋ダムバイパストンネル事業の概要について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・コンジットからのウォッシュロード排出量を推定式により算出しているが、実際はもっと多いと思われる。採水調査を実施して確認すること。
- ・貯水池の堆砂面が高くなるとコンジットからのウォッシュロード濃度が高くなる可能性も含めて、現在の推定式をチェックすること。
- ・コンジットからのウォッシュロード濃度は時系列でも変化するので確認すること。
- ・天竜川本川に土砂が排出されることから、もう少し天竜川水系全域での議論をすること。
- ・洪水規模の違いにより、第3貯砂堰の堆砂状況はどうなるか。また、昭和57年や昭和58年規模の出水が発生した場合のシナリオはどのようになるか考えること。

(2) モニタリング計画(案)

事務局よりモニタリング計画（案）について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・通常はバイパストンネルのオペレーションが決まってからモニタリングを計画するが、小渋ダムではモニタリングを行いながらオペレーションを考えるという順応的な対応方法とる。したがって、これまでの通常のモニタリングと位置付けが異なることに留意すること。
- ・呑口部の計測が不足していないか検討すること。
- ・濁りなどが上流部のどの段階から発生しているかを把握するため、もう少し上流から調査を行うこと。
- ・ダム下流域の生物の生息環境は、物理環境のようなマクロな観測ではなく、ミクロな観測を検討すること。

- ・ハイドロ操作をどのように設定するかが本委員会の最大のテーマである。洪水初期はバイパス、後期はコンジットなどが効率的という考え方もある。また、中規模出水と大規模出水では土砂挙動・堆積傾向が異なるため、ハイドロには土砂ハイドロのイメージを追加し、検討すること。
- ・土砂バイパストンネルの天井にレーンを設置して、映像・計測その他のデータを確保する方法を検討すること。

6. その他

(1) 今後の予定

今後の委員会・部会の開催方針（予定）について確認した。

(2) 現場見学会

7. 閉会